

開催日時：2002年7月23日(火) 10:00~12:30

場 所：アクスネッツ

参加者数：委員：4名 河川管理者：6名 委員傍聴者：1名

検討内容および決定事項

今後の検討の流れについて

庶務より資料1-1を用いて、瀬田川洗堰およびダムによる水位操作についての検討ステップ(例)が説明された。WGでは、委員会に「望ましい水位管理」についての複数の選択肢を示して提案するために、引き続き必要なデータを収集することが確認された。

河川管理者からの情報提供

- ・鳥居川水位と5箇所平均水位の違い、洪水調節ルール、既設ダムの効果、ダムが下流河川の環境・生息生物等に及ぼす影響について情報提供が行われた。
- ・環境に配慮した水位操作のとりくみとその効果について、弾力的管理試験を実施している真名川ダムの事例が報告された。

西野委員からの情報提供

「瀬田川洗堰水位操作規則の変更が琵琶湖の生態系に及ぼす影響」について説明が行われた。

- ・初夏～夏の水位低下の影響 主にコイ科の産卵場所面積の減少、産卵期の抑制(短縮)
- ・冬の水位上昇による影響 ヨシ刈り制限に伴う温水性魚類の産卵場所面積の維持
- ・長期的な影響 マイナス1m近い水位低下の発生頻度上昇によって、湖岸の一部が干出し、温水性魚類の産卵場所が減少。干出部の貝類が死滅。南湖の沈水植物の増加とそれに伴う南湖(夏期)の透明度上昇。

意見交換

河川管理者、西野委員からの情報提供について意見交換が行われた。

- ・水位操作の生態系への影響
- ・水位操作と近年の気候パターンの変化
- ・琵琶湖の水位変動と湖岸付近の土地利用、社会への影響(湯水等)

次回以降のスケジュール

第4回WGを8/5(月)15:00~17:00に開催する。

<予定している内容>

- ・これまでのWGで収集したデータ・問題点の整理を行う
- ・ダムが河川の生態系の連続性(栄養塩、水温等)に与える影響についての説明
- ・水位変動が河川敷の水生生物に与える影響についての説明
- ・河川管理者より、代表的なダムの流入流出量・水位変動と下流の水位変動の関係について琵琶湖の水位、洗堰の放流量と下流の水位変動の関係についての説明

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。